

本人に適した道を選ぶこと

崔 成海

時間の流れは速く、すでに日本に来て二年になりました。大学へ入学する時期が迫る中、二年間通った亜細亜友之会日本語学校とお世話になった先生らに何を残すべきかについて考えるようになりました。

2009年4月、私は他の大学卒業生と同様、わずかの日本語基礎と日本の有名大学院に進学したい夢をもって日本に来ました。

日本の大学院へ進学したい考えは浅く、自分の専門知識も弱かったので、大学の教授へ連絡した時には思わぬ問題が続出しました。2010年11月の留学試験締切二日前まで大学院にするか学部にするかを迷っていました。よく考えた末、自分に適した道を選ぶことにし、また、校長、丁先生及び担任の川井先生の助言を受けて学部へ申請することにしました。その後、4ヶ月間アルバイトを辞め、留学試験の準備に取り掛かりました。また、学校側が自習できる環境を具備してくれたことに大変感謝します。

先生のご指導と自分の不断の努力の結果、昨年11月の留学試験で日本語最高点369点（その中、聴解の最高点173点、読解の最高点196点、数学Iの最高点186点、総合科目の最高点195点）の最高の成績を修めることができ、一橋大学商学部に進学することができました。これは、大学院進学を諦めた無念さに最大の慰めでもありました。

語学学校の話をするとなれば、亜細亜友之会日本語学校は他の日本語学校と格別に違うところがあります。それは出席率に対する厳しさです。今回、大学・大学院に進学した卒業生は皆同じように思っているでしょう。最後まで頑張ることこそ良い結果につながるということが説明できます。

最後にはなりますが、厳しく管理して下さった校長先生と丁先生に感謝し、奨学金(文科省奨学金と留学試験成績優秀者特別奨学金)を下さったことに対し謝意を表します。

続編—頑張りましょう！

一橋大学に入学後、研究報告書を書いたり、発表したりして忙しい日々を過ごしています。本当の話をすれば、自分の知識と日本語能力の足りなさが浮き彫りになっています。これから更に頑張りたいと考えております。日本語学校で頑張ることが将来の夢を実現する礎となることを後輩たちにお伝えします。また、後輩たちが本人の理想と思われる大学・大学院に進学できることをお祈りします。